

◎景気ウォッチャー調査[2022年7月] 2022年7月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を4.9ポイント下回る43.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響なのか来客数が減少している。また、テレビやエアコンなど大物商材の売行きが悪くなっている。」(家電量販店)、「新型コロナウイルス第7波の影響もあり、既存予約がキャンセルとなり、先行予約が激減している。」(観光型ホテル)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を6.0ポイント下回る41.8となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「物価の上昇もあり、先行き不透明感はあるが、現状では景気は良くなっている。」(化学工業)、「5G市場や半導体向けのパッケージ基板の需要が拡大しているため、機械装置の受注は堅調に推移している。また、電子部品等の調達難により納期長期化を見越した客からの先行発注もあり、売上は増加傾向にある。」(電気機械器具製造業)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.3ポイント上回る48.5となった。

雇用関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「7月以降、原価高騰や半導体不足等の影響で、車や住宅等の販売状況が著しく悪化している。小売業も6月までは好調だったが、お中元商戦等は苦戦している。」(新聞社)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を11.8ポイント下回る48.5となった。

	7月	6月	前月差
合計	43.9	48.8	-4.9
家計動向関連	41.8	47.8	-6.0
企業動向関連	48.5	46.2	2.3
雇用関連(参考値)	48.5	60.3	-11.8

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を7.6ポイント下回る41.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「物価が上昇する一方で、給与は増加しないため、客の消費意欲が減退する。」(百貨店)、「資源や資材の高騰が続き、先行きが不透明な状況で、長期ローンを組み購入する住宅の購買意欲は低下する。」(住宅販売会社)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を8.2ポイント下回る41.8となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「商品の値上げを予定していることや新型コロナウイルスの感染拡大などから、景気はやや悪くなる。」(食料品製造業)、「エネルギー価格の上昇や半導体不足の影響もあり、販売量が減少する製品がある。」(非鉄金属製造業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.9ポイント下回る42.6となった。

雇用関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルス、円安、不安定な世界情勢の影響もあり、雇用状況は悪化する。」(人材派遣会社)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を13.2ポイント下回る41.2となった。

	7月	6月	前月差
合計	41.9	49.5	-7.6
家計動向関連	41.8	50.0	-8.2
企業動向関連	42.6	45.5	-2.9
雇用関連(参考値)	41.2	54.4	-13.2